

シルエット見守りセンサのご紹介 および現状と導入効果

キング通信工業株式会社

もくじ

- 会社概要
- 見守りセンサとは
- 介護施設で伺った困りごと
- シルエット見守りセンサの特徴
- 運用イメージ
- 導入施設の現状
- ご利用施設の声(導入効果)

会社概要①

会社の商号 キング通信工業株式会社 (KING TSUSHIN KOGYO CO.,LTD)

設立 昭和43年3月4日 (1968年3月4日)

資本金 397,215千円 (払込済み資本金)

事業内容 セキュリティ情報機器・システムの開発・設計・製造並びに販売

事業所	●本社／東京営業部	〒158-0092	東京都世田谷区野毛2-6-6	TEL 03-3705-8111
	●横浜テクノセンター	〒225-0014	横浜市青葉区荏田西1-10-1	TEL 045-972-5381
	●大阪支店	〒542-0012	大阪府中央区谷町7-1-39	TEL 06-6763-0081
	●福岡支店	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前3-19-14	TEL 092-441-5781
	●仙台営業所	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡3-7-35	TEL 022-291-0881
	●名古屋営業所	〒461-0005	名古屋市東区東桜2-9-34	TEL 052-934-0381
	●札幌営業所	〒060-0808	札幌市北区北八条西4丁目1-1	TEL 011-807-9681

役員 代表取締役 茂木 俊介

従業員数 239名



本社



横浜テクノセンター

会社概要②

主要納入設置先

全国主要警備保障会社 400社、主要ビルメンテナンス会社 90社
官公庁、ガス・石油備蓄基地、全国金融機関各行、全国教育施設 など

主要商品

- F-10セキュリティコミュニケーションシステム
- 画像情報処理システム
- 侵入検知器・システム
- 入退室管理システム
- 来訪者管理システム



ホームセキュリティ用送信機



ホームセキュリティ用リモコン



受動型赤外線検知器
(パッシブセンサ)



法人向け
カードリーダー

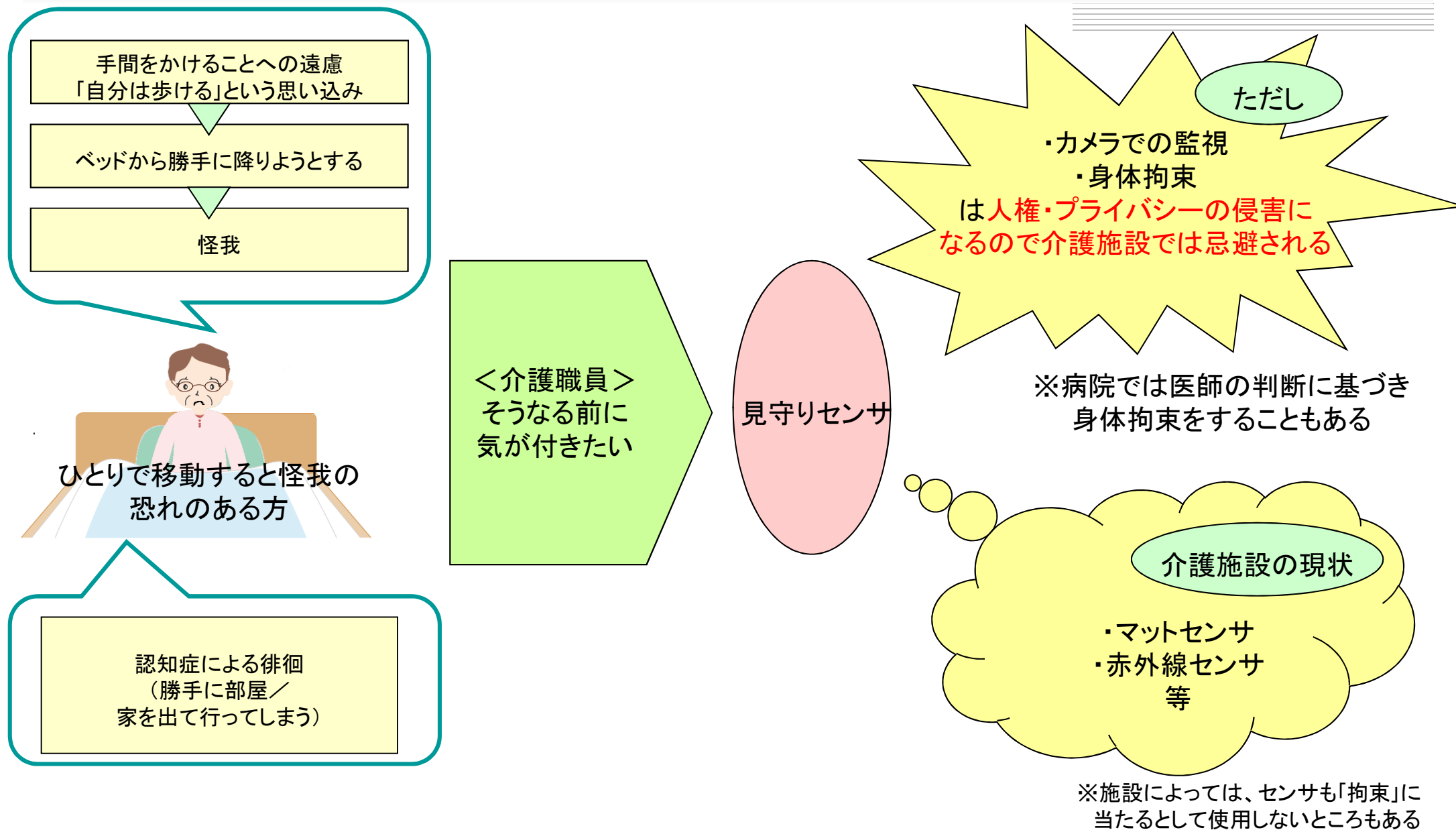


F-10 2G
セントラルステーション



KINGアナログカメラ

介護施設における現状の見守りとは① ー見守りセンサとは



介護施設における現状の見守りとは② ー主な見守りセンサ

マットセンサ



Copyright©2007 Techno Japan Co., Ltd. All Right Reserved

- ・床(ベッド足元)に敷く
- ・マットに圧力がかかるとお知らせ

ベッドセンサ



Copyright©2007 Techno Japan Co., Ltd. All Right Reserved

- ・ベッド上に敷く
- ・圧力のかかり方が変わるとお知らせ

赤外線センサ



- ・赤外線を通るとお知らせ

クリップセンサ



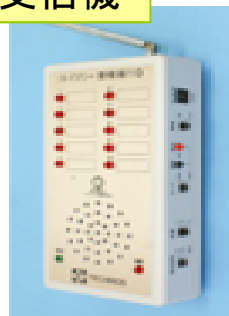
- ・クリップがご利用者の体から離れるとお知らせ

お知らせ先

ナースコール



専用受信機



☆ポイント

主に夜間に使用する

見守りが必要な人にだけ使用
(全床についているわけではない)

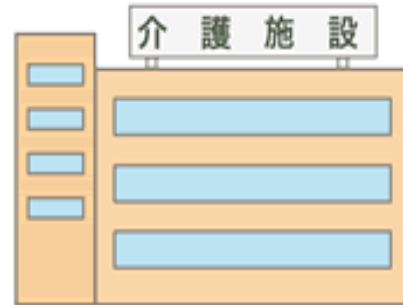
使用する際には「ご家族の同意」が必要

「介護施設」における困りごと

■ご利用者①：施設入居者



...



お困りごと①

- ・日中は、多数の介護職員が勤務しているが、夜間は一人で数十人の方を介護する



■ご利用者②：短期入所者



お困りごと②

短期入所者は、状態を把握していない為
目を離せない

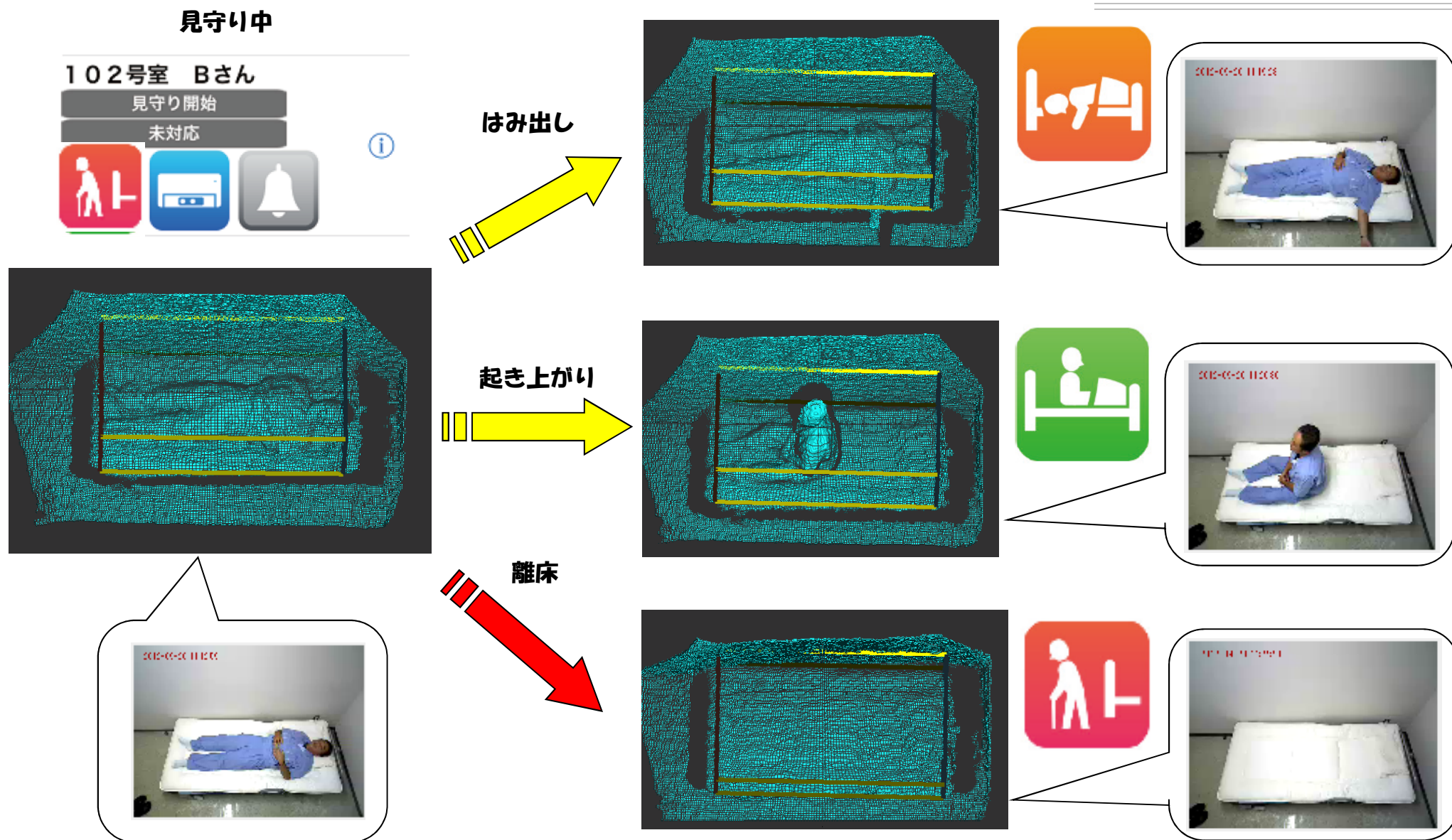
「状況の確認、対応優先度の判断材料」が足りない

シルエット見守りセンサの特徴

- ① 起き上がり・はみ出し・離床を区別してお知らせ
- ② シルエット画像でご利用者様の様子を確認
- ③ 履歴を保存
- ④ 移設が簡単にできる
- ⑤ センサ1台から運用できる



シルエット見守りセンサの特徴 — お知らせ内容



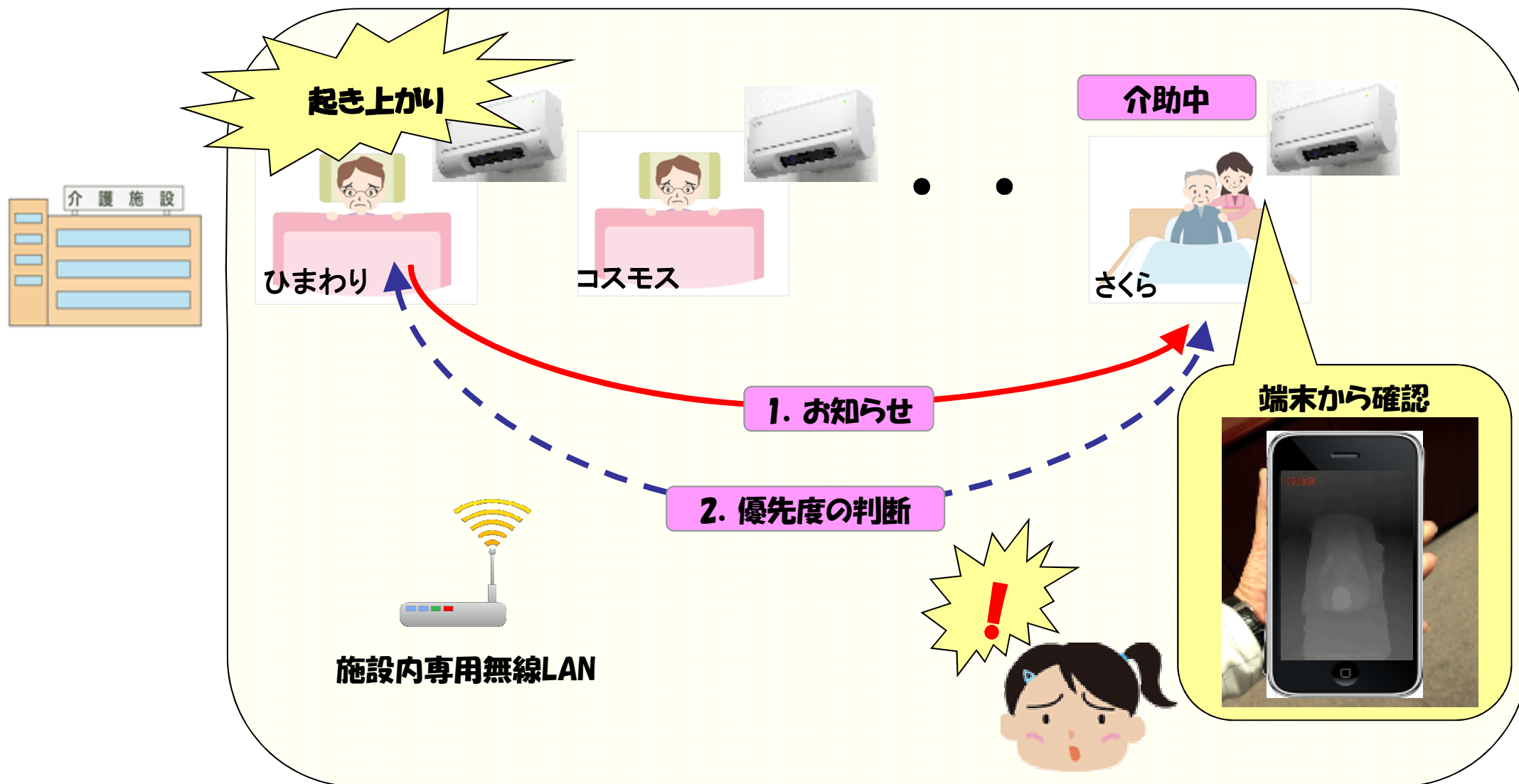
シルエット見守りセンサの特徴 — シルエット画像



シルエット見守りセンサの特徴 — 移設



運用イメージ①



導入施設の声

導入いただいている施設の種類

特別養護老人ホーム

介護老人保健施設

ショートステイ

グループホーム

介護付有料老ホーム

複数のセンサから同時にお知らせがあった際、どの居室にまず向かうべきかを判断できるようになり、
アクシデントやインシデントが減ったと実感している

転倒等を経験しているご家族にとっては、センサが施設へ家族を預けるにあたっての
安心材料になっている

離れた場所から居室内のご利用者様の状況を知ることができるため、「一人で多数状態を把握しなければならない」ことへの
夜勤職員の不安感や負担が軽減された

保存されている「履歴」および「シルエット画像」を確認することで
行動の把握、ケアの改善に役立てられる

施設の声

介護ロボット導入効果実証研究事業

介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業

平成28年度第二次補正予算 4. 0 億円

① 施策の目的

介護ロボットの導入を支援するとともに、導入時における介護業務の効率化・負担軽減効果について検証することを通じて、介護ロボットの活用による生産性の向上の推進を図る。

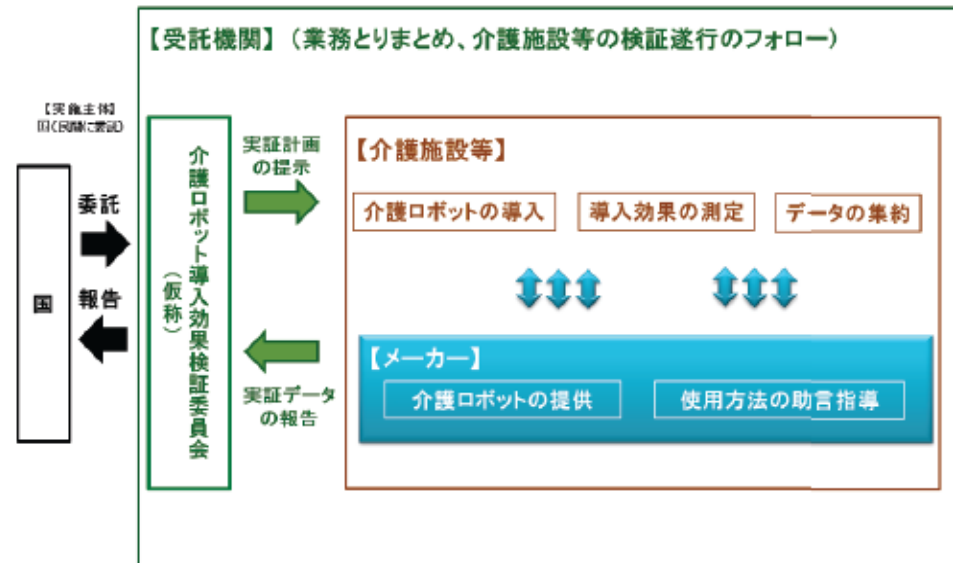
② 施策の概要

介護従事者の負担軽減を図るため、介護施設への介護ロボットの導入支援を行う。
あわせて、導入施設等において、介護ロボットを導入した場合の介護業務の効率化・負担軽減効果について実証検証を行う。

③ 施策のスキーム、実施要件(対象、補助率等)、成果イメージ(経済効果、波及プロセスを含む)等

事業内容

- 介護現場や民間企業などの関係者で構成する「介護ロボット導入効果検証委員会(仮称)」を立ち上げ、介護ロボットの導入により期待できる介護の負担軽減効果等を検証するための実証計画を策定する。
- 実証計画に基づき、介護施設等に介護ロボットを導入するとともに、導入効果のデータを測定・収集するため、介護ロボットを活用した場合・しない場合の介護業務についてタイムスタディ等を実施する。
- 対象機器は、開発重点5分野(①移乗支援、②移動支援、③排泄支援、④見守支援、⑤入浴支援)を基に選定する。
- 得られたデータについて「介護ロボット導入効果検証委員会(仮称)」において分析・検証を行う。



全体としては40件
当社は6施設で実証

- ・特養ホームコア
トレース厨川(岩手)
- ・特養ホームオレンジ
ガーデン(千葉)
- ・うきま幸朋苑
(東京)
- ・特養ゆめあまみ
(大阪)
- ・特養健祥会
モルダウ(徳島)
- ・五湖の郷
(福井)

ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業

ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業(平成28・29年度)

介護現場の現状と課題

- 介護現場では腰痛問題が深刻化しており、介護負担の軽減が喫緊の課題
- 慢性的な人手不足等により、利用者への支援が画一的になりがちとの指摘

ロボット介護機器・福祉用具活用の検討



ロボット介護機器・福祉用具を活用する上での課題

- 福祉用具等を導入していても使用方法が不適切であれば、十分な効果が発揮されない。
- 導入や利用に係る費用が高いほか、ロボット介護機器については、操作が複雑、装着に時間がかかるなどの課題が指摘されている。

■ 社会福祉法人
友愛十字会
特別養護老人ホーム
砧ホーム

介護の身体的負担の軽減、介護の質の向上や高齢者の自立支援を図るため、ロボット介護機器・福祉用具の適切な使用方法や効果的な導入方法の検証・普及が必要

事業の概要

(H28・H29) ロボット介護機器・福祉用具導入支援事業

①目的

アドバイザーが、専門的な視点から、福祉用具等のコンサルティングや効果的なロボット介護機器・福祉用具の使用方法を検証し、適切な使い方を都内施設に広めていく契機とする。

②内容

- アドバイザーがモデル施設の実情を踏まえ、目的に見合ったロボット介護機器・福祉用具の選定や、既存の福祉用具等を含めた適切な使い方のコンサルティングを実施
- 定期的なモニタリングにより導入効果を測定し、効果的な使い方を検証

H28 実施状況

モデル施設2施設において以下の機器を導入し、効果検証を開始

砧ホーム(特別養護老人ホーム)

- ・移乗支援用機器
- ・見守り用機器2種類

ユニット菜の花(介護老人保健施設)

- ・モジュール式車いす
- ・移乗支援用機器
- ・見守り用機器
- ・コミュニケーション用ロボット

(H29) アドバイザーによる国関連事業フォロー

①目的

国関連事業で機器を導入した事業所をフォローするとともに、幅広い普及啓発に向けた導入事例の収集を行う。

②内容

国関連事業で機器を導入した施設に対してアドバイザーが訪問し助言

③対象施設

- 地域医療介護総合確保基金事業で機器を導入する施設 5施設
※機器導入経費の補助を実施(平成29年度新規)
- 国の「介護ロボット導入支援特別事業」で機器を導入した施設 10施設

成果を踏まえた普及啓発

(H29) ロボット介護機器・福祉用具普及報告会等

①目的

ロボット介護機器・福祉用具に関する情報や効果的な導入例を広く周知する。

②内容

- モデル事業の成果をまとめた報告書及び普及啓発用パンフレットの作成
- モデル事業実施施設の公開見学会を実施(開催回数 4回)
- 有識者等による講演やモデル事業実施施設から事業の成果報告等の実施(開催回数 1回)

事業の効果

ロボット介護機器・福祉用具の適切な使用



介護の身体的負担を軽減
介護の質の向上、高齢者の自立支援を促進



介護職員の離職率低下、人手不足の解消
QOLの向上や介護予防の実現



ご清聴ありがとうございました。